

第1学年 探究科学科 県内施設見学

第2学期中間考査の翌日、10月19日（木）、小雨の降る中、県外施設見学を実施しました。

スギノマシン早月事業所と不二越本社では、地元産業への理解を深めるとともに、実際にウォータージェットでものを裁断させてもらえたり、ロボットが動く様子を目の当たりにすることで、最新の技術に触れて、科学技術が私たちの生活にどのように関わっているのかを肌で感じました。防塵カバーの着用やインカムを使って説明を聞いたのも新鮮な体験でした。

また、文化施設を訪ね、富山市岩瀬地区では、30年近くにもわたるまちおこしの取り組みについてのお話を伺いながら歴史を感じさせる町並みを散策し、陶芸・彫刻・ガラスの工房や酒蔵を訪ねました。富山県立イタイタイ病資料館では、イタイタイ病との闘いや、土壌改良によって美しい水と大地を取り戻した苦闘の記録に触れることができました。資料室でたくさんの関連図書を見せてもらったことも印象的でした。

探究的・科学的な見方や考え方を養う機会となり、この経験を今後の調査・研究に生かしていきたいと考えています。施設見学に協力して下さった皆様に感謝します。

***** 研修のまとめ 生徒のレポートより *****

◆ 自ら考え、自ら造り、自ら販売・サービスをおこなうという経営理念のもと、多方面にわたって事業を展開し、国内外に製品を納品している。常に高い業績を上げておられるのは、絶え間ない技術革新や営業努力、社内環境の良さなどのプラス面が上手くかみ合っているからだろう。日本がものづくり立国としての地位を確立してきた根底にあるものをスギノマシンの企業見学を通じて学ぶことができた。



◆ 不二越は、特にロボット作りの技術がすばらしいと思った。ロボットが活躍するのは、人間が入りづらい場所や人手が足りない夜勤などの場面である。ロボットは人間の腕を再現していて、お客さんのニーズにあったものづくりを目指しておられることがわかった。また、使う人失敗を前提として、人が近づくとき止まるロボットなど、安全に対しても、とても気を配っておられると知り、

すばらしいと思った。自動車のエンジンであったり、新幹線のベアリングなど、わたしたちの生活を支えてくれていることがわかった。

◆ 案内して下さった榊田酒造の榊田さんの言葉には、われわれを捉えるパッションを感じた。外国にひけをとらない美意識のこもった伝統を感じさせるまちづくり、立ち寄った陶芸家、木彫家、ガラス工芸家の方々の作品に対するひたむきさや創造力といったものに出会った。誰もの持つひたむきな思い、街並みを良くして日本人の感性を遺憾なく伝えようという気持ち、今の岩瀬をつくり、これからの岩瀬をつくっていくのだと思う。またいつか大人になったときに、ゆっくりと町歩きをして、ここにしかないものを感じてみたい。探究的な視点としては、町並みの美しさや雰囲気といった視覚的なものだけではなく、それらを造りあげた内的動機にも着目したいと思った。



◆ イタイイタイ病については、何度も話を聞いたことがあり、自分では結構知っているつもりでいたけれど、まさかここまでむごい病気だとは思っていませんでした。特に、全身72カ所を骨折した女性の写真を見たときには、とても辛い気持ちになりました。公害は二度と起こしてはいけないということを良く学ばされました。また、汚染された土壌をもとに戻すために長い年月を費やしたということも知り、その先人の努力に感謝したいと思います。

◆ 訪れた施設はジャンルとして全く違うところだったけど、様々なことを学びました。わたし達が特に取り入れたら良いのではないかと思ったのは、行き詰まったときなどに、一旦他の角度から考えて見ることで、新たな気づきが得られるということです。どの施設でも、事前に調査したよりも、もっと深いところでたくさんの刺激を受けることができました。今日学んだこと、感じたことなどを、是非自分の今後につなげていきたいと思いました。

